TANIUM

全世界の約1万3000台の端末を リアルタイムに、かつファクトベースで可視化

EBARA

株式会社荏原製作所

業種
製造業

従業員数
約18,000人

本社所在地
東京都大田区

導入商品
Tanium Core, Asset, Comply, Deploy, Discover, Patch, Threat Response

Taniumの導入効果

- 海外展開を加速し、ITグローバルガバナンスを実現
- グローバルでオペレーションを一元化し最適化
- テレワーク環境を含め90%以上の端末に最新のパッチを適用
- 国内と併せて海外の拠点の状況もリアルタイムに可視化
- オフィスに出社している社員数を簡単に把握

1912年創業の株式会社荏原製作所（以下、荏原製作所）は風水力機械、環境プラント、精密・電子事業からなる産業機械メーカ。Taniumを活用して全世界のPC資産管理を実現している。

サイバーハイジーンが、課題解決の答えに

荏原製作所は近年、経営改革およびデジタル改革に積極的に取り組んでいる。攻めと守りのガバナンスを標榜し経営の高度化を推進する中で、営業利益率も改善している。それまで各国で統一されていなかったERPをグローバル展開するとともに、ITインフラの統一も図っている。

2019年、翌年に東京で開催予定だったオリンピック・パラリンピックを前に、交通混雑緩和を目指し、テレワーク率を増やす施策を企業に求める機運が高まった。グローバルITインフラにおけるセキュリティについて検討を重ねてきた情報通信統括部では、並行してテレワーク時のセキュリティを検討対象に加えることになった。

多角的に情報収集を進める中で、あるセミナーに参加する機会があった。情報通信統括部 ITアーキテクト部長 千葉 一機氏は、「参加した当時の部長が、これからはサイバーハイジーンの時代がくるぞ、と興奮して帰ってきました。色々と調べた結果、サイバーハイジーンがそれまで抱えていたモヤモヤを解決する答えになると感じ、Taniumについても調べ始めました」と当時を振り返る。健全なセキュリティ状態を保ち感染や攻撃を予防するサイバーハイジーンが、ITセキュリティガバナンスのベースとなると考えたのだ。

その後、複数のソリューションを比較検討し、PoCを実施した上でTaniumの採用を決めた。Taniumは課題に対応する機能をすべて備えていただけでなく、リアルタイム性に欠ける他のソリューションに比べ、そのレスポンスの速さに驚いた。ネットワークに負荷をかけることなく、リアルタイムにすべての端末の「今の状況」がわかる。そして管理対象が増えても、そのスピードが落ちることはない。リニアチェーン・アーキテクチャの力を実感した。

情報通信統括部 ITアーキテクト部
ネットワーク・セキュリティ管理課 木村 太郎氏

PC資産管理は、グローバルITインフラのセキュリティの基本部分。これからも、Taniumをフル活用して優れたインフラへと育てていきたいと考えています。

情報通信統括部 ITアーキテクト部長
千葉 一機氏

リアルタイムに状況がわかるメリット

2021年3月にTaniumの導入とグローバル展開を開始し、10月ごろにはほぼ完了。全世界で約1万3000台の端末を管理対象とした運用がスタートした。以前はパッチの配信にWSUS（Windows Server Update Services）を利用していたが、実態を見てみると、パッチが正しく適用されていたのは約4割程度であることが明るみになった。

情報通信統括部
ITアーキテクト部長 千葉 一機氏

情報通信統括部 ITアーキテクト部 ネットワーク・セキュリティ管理課 木村 太郎氏は、「実態はこんなものだろうと低く見積もっていたのですが、まさにそのとおりの結果で、課題が明確になりました。WSUSではパッチの配信はできます。しかし、適用されたのかまでは管理することができません」と話す。

Taniumを使ってパッチを適用する運用に切り替えた結果、現在は9割以上のPCを最新のパッチが適用された状態で維持できている。また状況が可視化されていることで、運用負荷を軽減することもできた。「Taniumを使えば、パッチの配信だけでなく、適用状況まで管理できます。状況をすばやく把握し、コントロールすることが可能になりました」（木村氏）。

海外の状況をファクトベースで可視化できることも大きなメリットになった。以前は海外の拠点の管理は現地任せになっており、現地へのヒアリングベースで情報収集を行なっていた。「きちんと対応している」と報告されれば、他に確認する術がなかったが、実際には暗号化されているはずのディスクが、紛失後に実は暗号化されていなかった事が発覚したこともあった。また、情報管理のレベルにはばらつきがあり、正確性だけでなく網羅性にも課題があった。統一されたインフラとしてTaniumがあれば、報告は不要だ。日本から海外の状況をリアルタイムに可視化でき、パッチを自動的に適用することもできる。

また思わぬところで、Taniumのリアルタイムの情報を活かせることもわかった。荏原製作所は、勤怠管理にオフィスへの入退室で使うセキュリティカードの履歴データを使用していたが、それを廃止しオンラインでの勤怠管理に移行した。しかしそれによって問題も発生した。社員がオフィスに出社しているのか、リモートワークをしているのかを把握できなくなったのだ。出社人数がわからなければ、社員食堂で用意する食事の提供数を見積もれない。そこで、Taniumを使って「社内でオンラインの端末数」を確認し、その数を出勤者数として社員食堂へ情報提供することにしたのだ。これにより、社員食堂は以前と同様の需要予測に基づき、最適な分量の食事を提供し続けられることになった。

クラウド版への移行を計画

荏原製作所は、現在オンプレミス版のTaniumを利用しているが、リソースが限られている中で、開発スピードが早く新機能が頻繁にリリースされるTaniumをタイムリーにバージョンアップすることは難しい。

そこで、Tanium Cloudへの移行計画を進めている。木村氏は、「クラウド版を使うことで、サーバ管理する手間が省けます。またアップデート作業をすることなく、最新機能をいち早く使えるという点で、クラウド版は魅力的です」と話す。

連結対象の海外グループ会社は、約50拠点。今後はTanium Cloudを使って、国内グループ会社と併せてこれらの拠点のIT資産を安心・安全に運用し、サイバーハイジーンをさらに徹底していくことを計画している。また、Threat Responseモジュールの活用も検討しており、万が一の場合にもTaniumを使ってすばやく脅威に対応する体制を整える予定だ。

お問い合わせ

TANIUM

タニウム合同会社
〒100-0004　東京都千代田区大手町２丁目６－４ 常盤橋タワー25階

https://www.tanium.jp
jpmarketing@tanium.com

©2022 Tanium, Inc. All rights reserved. Tanium は Tanium, Inc. の登録商標です。その他の社名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。